

令和3事業年度

自 令和3年1月1日

至 令和3年12月31日

財務諸表

日本中央競馬会

目 次

令和3事業年度財務諸表

一 般 勘 定		
財 産 目 録	1
貸 借 対 照 表	2
損 益 計 算 書	3
資 本 等 変 動 計 算 書	4
注 記 表	5
特別振興資金勘定		
財 産 目 録	11
貸 借 対 照 表	12
損 益 計 算 書	12
資 本 等 変 動 計 算 書	13
注 記 表	14

財産目録（一般勘定）

令和3年12月31日 現在

一般勘定

摘 要	金 額	摘 要	金 額
	円		円
I 流動資産	464,231,960,831	I 流動負債	54,828,282,505
1 現金・預金	104,266,602,746	1 未払金	8,922,770,167
2 有価証券	351,299,755,176	2 国庫納付金未払金	34,271,496,510
3 貯蔵品	828,192,877	3 払戻金等未払金	4,127,268,650
4 育成馬	673,656,126	4 未払税金	1,528,023,758
5 未収金	6,117,238,900	5 未払費用	1,384,968,754
6 前払費用	720,363,055	6 前受金	337,236,096
7 その他の流動資産	326,151,951	7 預り金	3,747,607,280
		8 前受収益	9,619,574
		9 賞与引当金	499,291,716
II 固定資産	759,678,959,337		
(1) 有形固定資産	542,939,317,648	II 固定負債	35,421,361,565
1 建物	245,320,417,821	1 退職給付引当金	34,947,691,127
2 構築物	47,477,486,436	2 役員退職慰労引当金	48,728,458
3 機械・装置	7,307,723,573	3 長期預り金	12,127,966
4 車両・運搬具	613,722,734	4 事業構造改善引当金	214,030,000
5 工具・器具・備品	38,800,252,960	5 特別修繕引当金	198,784,014
6 馬ひつ	897,357,213		
7 馬場施設	20,807,250,357	(負債合計)	90,249,644,070
8 土地	137,489,978,591		
9 建設仮勘定	44,225,127,963	差引正味財産	<u>1,133,661,276,098</u>
(2) 無形固定資産	29,067,255,090		
1 借地権	10,696,517,029		
2 電話加入権	66,453,467		
3 ソフトウェア	15,175,065,664		
4 ソフトウェア仮勘定	3,129,218,930		
(3) 投資その他の資産	187,672,386,599		
1 長期性預金	75,000,000,000		
2 投資有価証券	100,746,852,595		
3 関係会社株式	502,600,001		
4 建設協力金	1,712,000,000		
5 敷金	4,025,478,192		
6 その他の資産	6,388,298,811		
7 貸倒引当金	△ 702,843,000		
(資産合計)	1,223,910,920,168		

貸借対照表（一般勘定）

令和3年12月31日 現在

一般勘定

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
	円		円
I 流動資産	464,231,960,831	I 流動負債	54,828,282,505
1 現金・預金	104,266,602,746	1 未払金	8,922,770,167
2 有価証券	351,299,755,176	2 国庫納付金未払金	34,271,496,510
3 貯蔵品	828,192,877	3 払戻金等未払金	4,127,268,650
4 育成馬	673,656,126	4 未払税金	1,528,023,758
5 未収金	6,117,238,900	5 未払費用	1,384,968,754
6 前払費用	720,363,055	6 前受金	337,236,096
7 その他の流動資産	326,151,951	7 預り金	3,747,607,280
		8 前受収益	9,619,574
		9 賞与引当金	499,291,716
II 固定資産	759,678,959,337	II 固定負債	35,421,361,565
(1) 有形固定資産	542,939,317,648	1 退職給付引当金	34,947,691,127
1 建築物	245,320,417,821	2 役員退職慰労引当金	48,728,458
2 構築物	47,477,486,436	3 長期預り金	12,127,966
3 機械・装置	7,307,723,573	4 事業構造改善引当金	214,030,000
4 車両・運搬具	613,722,734	5 特別修繕引当金	198,784,014
5 工具・器具・備品	38,800,252,960	(負債合計)	90,249,644,070
6 馬ひつ	897,357,213	I 資本	1,132,021,862,234
7 馬場施設	20,807,250,357	(1) 資本金	4,924,129,000
8 土地	137,489,978,591	1 政府出資金	4,924,129,000
9 建設仮勘定	44,225,127,963	(2) 資本剰余金	6,075,658,643
(2) 無形固定資産	29,067,255,090	1 資本剰余金	6,075,658,643
1 借地権	10,696,517,029	(3) 利益剰余金	1,121,022,074,591
2 電話加入権	66,453,467	1 損失てん補準備金	200,000,000
3 ソフトウェア	15,175,065,664	2 特別積立金	1,049,661,232,649
4 ソフトウェア仮勘定	3,129,218,930	3 繰越利益剰余金	71,160,841,942
(3) 投資その他の資産	187,672,386,599	II 評価・換算差額等	1,639,413,864
1 長期性預金	75,000,000,000	1 その他有価証券 評価差額金	1,639,413,864
2 投資有価証券	100,746,852,595	(純資産合計)	1,133,661,276,098
3 関係会社株式	502,600,001		
4 建設協力金	1,712,000,000		
5 敷金	4,025,478,192		
6 その他の資産	6,388,298,811		
7 貸倒引当金	△ 702,843,000		
資産合計	1,223,910,920,168	負債・純資産合計	1,223,910,920,168

損益計算書（一般勘定）

令和3年1月1日 から 令和3年12月31日 まで

一般勘定

摘 内 訳	要 金 額	金 額
	円	円
事業損益の部		
I 事業収益		
1 勝馬投票券収入	3,118,220,964,381	
2 事業収入	18,254,329,497	3,136,475,293,878
II 事業費用		
1 勝馬投票券諸支払金	2,358,070,307,733	
2 国庫納付金	310,796,007,380	
3 競馬事業費	139,218,936,851	
4 競走事業費	139,476,194,424	
5 業務管理費	111,307,476,911	3,058,868,923,299
事業利益		77,606,370,579
事業外損益の部		
I 事業外収益		
1 利息収入	925,671,579	
2 施設貸付料等諸収入	3,631,217,749	4,556,889,328
II 事業外費用		
1 雑損失	3,332,992	3,332,992
経常利益		82,159,926,915
特別損益の部		
I 特別利益		
1 固定資産処分益等	110,551,469	110,551,469
II 特別損失		
1 固定資産処分損等	6,166,762,372	
2 災害関連損失	4,942,874,070	11,109,636,442
当期純利益		71,160,841,942

資本等変動計算書（一般勘定）

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

（単位：円）

	資 本							純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			資本合計	評価・換算差額等		
			損失てん補準備金	特別積立金	繰越利益剰余金				利益剰余金合計
令和2年12月31日残高	4,924,129,000	6,075,658,643	200,000,000	1,049,661,232,649	61,528,936,665	1,111,390,169,314	1,122,389,956,957	2,040,620,870	1,124,430,577,827
事業年度中の変動額									
国庫納付金の納付					△ 30,764,468,332	△ 30,764,468,332	△ 30,764,468,332		△ 30,764,468,332
損失てん補準備金の積立									
特別振興資金勘定への繰入					△ 30,764,468,333	△ 30,764,468,333	△ 30,764,468,333		△ 30,764,468,333
特別積立金の積立									
当期純利益					71,160,841,942	71,160,841,942	71,160,841,942		71,160,841,942
資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）								△ 401,207,006	△ 401,207,006
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	9,631,905,277	9,631,905,277	9,631,905,277	△ 401,207,006	9,230,698,271
令和3年12月31日残高	4,924,129,000	6,075,658,643	200,000,000	1,049,661,232,649	71,160,841,942	1,121,022,074,591	1,132,021,862,234	1,639,413,864	1,133,661,276,098

※注記事項 繰越利益剰余金について

繰越利益剰余金の期末残高 71,160,841,942円は以下の通り処分する。

日本中央競馬会法第27条第2項による国庫納付金の納付 35,580,420,971 円

日本中央競馬会法第29条の2第3項による特別振興資金勘定への繰入 35,580,420,971 円

注記表（一般勘定）

本会の財務諸表等は、競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）、日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）及び日本中央競馬会の会計に関する規約（平成 19 年 8 月 31 日規約第 3 号）に基づいて作成している。

（重要な会計方針）

1. 資産の評価基準及び評価方法

（1）有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）によっている。

関係会社株式

移動平均法に基づく原価法によっている。

その他有価証券

・時価（市場価格）のあるもの

事業年度末日の市場価格等に基づく時価法によっている。（評価差額は全部純資産直入法によって処理し、売却原価は移動平均法により算定）

・時価（市場価格）のないもの

取得原価を貸借対照表価額としている。

（2）棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっている。

育成馬

個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっている。

2. 固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

平成 19 年 12 月 31 日以前に取得した資産については法人税法施行令に定められた旧定額法（建物附属設備及び機械・装置については旧定率法）、平成 20 年 1 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までに取得した資産については法人税法施行令に定められた定額法（建物附属設備及び機械・装置については定率法）、平成 28 年 4 月 1 日以降に取得した資産は法人税法施行令に定められた定額法（機械・装置については定率法）により償却している。

耐用年数等については、減価償却資産の耐用年数等に関する省令に定める基

準に従っている。ただし、当該基準によりがたいものについては、日本中央競馬会の会計に関する規約の定めによっている。

また、馬場施設の部分的取替えに要する費用については、取替えた時の費用として処理している。

(2) 無形固定資産

定額法により償却している。

なお、本会利用のソフトウェアについては、本会における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっている。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

(2) 賞与引当金

翌事業年度の役職員等の特別手当の支給に充てるため、当事業年度の支給額を基礎とした見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上している。

(3) 退職給付引当金

職員等の将来の退職給付に備えるため、当事業年度末日における退職給付債務及び年金資産の見込額等に基づき計上している。

会計基準変更時差異は、15年による按分額を費用処理している。

過去勤務費用は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により費用処理している。

数理計算上の差異は、その発生時の職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により、それぞれ発生時の翌事業年度から費用処理している。

(4) 役員退職慰労引当金

役員に対する退職慰労金支給に備えるため、規程に基づく期末要支給額を計上している。

(5) 事業構造改善引当金

事業構造改善に伴い発生する費用または損失に備えるため、当事業年度末日における見積額を計上している。

(6) 特別修繕引当金

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」によって処理することが義務付けられているPCB廃棄物の処理に備えるため、その処理費用見積額を計上している。

(7) 災害関連損失引当金

大規模災害に伴い発生する費用または損失に備えるため、事業年度末日における見積額を計上している。

4. その他

(1) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

(会計上の見積りに関する注記)

1. 退職給付引当金

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

34,947 百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

① 当事業年度の財務諸表に計上した金額の算出方法

当事業年度末における退職給付債務から年金資産を控除して算出している。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっている。

② 重要な会計上の見積りに用いた主要な仮定

退職給付債務の計算において使用する割引率は、安全性の高い債券の利回りを基礎として決定しており、年金資産の長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期収益率を考慮して決定している。

③ 翌事業年度の財務諸表に与える影響

会計上の見積りは、過去の実績や他の合理的と考えられる方法により行っているが、当該見積りには不確実性があるため、実際の結果が見積りと異なった場合、翌事業年度の財務諸表において、退職給付引当金の金額に重要な影響を与える可能性がある。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額

824,095 百万円（うち減損損失累計額 518 百万円）

2. 関係会社に対する金銭債権・債務

短期金銭債権	44 百万円
短期金銭債務	3,015 百万円
長期金銭債務	12 百万円

3. 金融商品の時価等に関する事項

(1) 金融商品の状況に関する事項

本会の資金運用については、日本中央競馬会法に定められており、金融機関への預金、国債その他農林水産省令で定める有価証券の保有に限定して運用している。なお、上場株式は保有していない。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

令和3年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていない。

(百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	104,266	104,266	—
(2) 有価証券・投資有価証券	452,046	452,696	650
① 譲渡性預金	324,200	324,200	—
② 満期保有目的の債券	93,198	93,848	650
③ その他有価証券	34,648	34,648	—
(3) 国庫納付金未払金	(34,271)	(34,271)	—

※ 負債に計上されているものについては、() で示している。

【注1】金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(2) 有価証券及び投資有価証券

時価について、債券は取引所の価格によっている。また、譲渡性預金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(3) 国庫納付金未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

【注2】時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

長期性預金（貸借対照表価額 75,000 百万円）は、満期日が1年超のマルチ・コーラブル預金等である。当該預金は市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フロー等を見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表に含めていない。

【注3】金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

(百万円)

	貸借対照 表計上額	1年以内	1年超 10年以内	10年超
① 譲渡性預金	324,200	324,200	—	—
② 満期保有目的の債券	93,198	19,998	73,199	—
③ その他有価証券	34,648	7,101	8,420	19,126
④ 長期性預金	75,000	—	2,000	73,000

(損益計算書に関する注記)

1. 関係会社との取引高

関係会社に対する事業費用額	38,694 百万円
関係会社との事業損益以外の取引額	765 百万円

2. 減損会計の適用

(1) 当期に減損損失を計上した資産

用途	種類	場所	減損損失額
遊休資産	馬場施設等	美浦等	221 百万円

競馬事業という単一事業を行っている特殊性から、すべての資産が一体となってキャッシュ・フローを生成しているため、全体を一つの資産グループとしている。ただし、そのうち遊休状態となっている資産は、独立した個別の資産グループとして取り扱っている。

(2) 減損損失の認識に至った経緯

遊休状態となっている資産は、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を特別損失に計上している。

(3) 回収可能価額の算定方法

土地

固定資産税評価額等に基づき算定した正味売却価額をもって、回収可能価額としている。

その他の資産

回収可能性が認められないため、備忘価額としている。

3. 災害関連損失の内訳

福島県沖地震による影響額として被災資産復旧費用等 2,942 百万円、新型コロナウイルス感染症対策への支援金として 2,000 百万円を災害関連損失に計上している。

財産目録（特別振興資金勘定）

令和3年12月31日 現在

特別振興資金勘定

摘 要	金 額	摘 要	金 額
	円		円
I 流動資産	67,778,332,962	I 流動負債	1,506,424,409
1 現金・預金	5,669,582,867	1 未払金	1,480,625,542
2 有価証券	62,000,000,000	2 払戻金上乗せ未払金	25,769,750
3 貯蔵品	35,090,000	3 預り金	29,117
4 未収金	10,473,359		
5 前払費用	37,400,000		
6 その他の流動資産	25,786,736		
II 固定資産	33,876,066,870	(負債合計)	1,506,424,409
(1) 有形固定資産	32,725,625,151	差引正味財産	<u>100,147,975,423</u>
1 建物	20,535,309,659		
2 構築物	6,841,843,412		
3 機械・装置	94,203,665		
4 工具・器具・備品	111,377,848		
5 土地	4,714,548,167		
6 建設仮勘定	428,342,400		
(2) 無形固定資産	1,150,441,719		
1 借地権	162,778,654		
2 ソフトウェア	987,663,065		
(資産合計)	101,654,399,832		

貸借対照表（特別振興資金勘定）

令和3年12月31日 現在

特別振興資金勘定

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
内 訳	金 額	内 訳	金 額
	円		円
I 流動資産	67,778,332,962	I 流動負債	1,506,424,409
1 現金・預金	5,669,582,867	1 未払金	1,480,625,542
2 有価証券	62,000,000,000	2 払戻金上乘せ未払金	25,769,750
3 貯蔵品	35,090,000	3 預り金	29,117
4 未収金	10,473,359		
5 前払費用	37,400,000		
6 その他の流動資産	25,786,736		
		（負債合計）	1,506,424,409
II 固定資産	33,876,066,870		
(1) 有形固定資産	32,725,625,151	I 特別振興資金	100,147,975,423
1 建物	20,535,309,659		
2 構築物	6,841,843,412	1 繰入金	100,147,975,423
3 機械・装置	94,203,665		
4 工具・器具・備品	111,377,848		
5 土地	4,714,548,167	（純資産合計）	100,147,975,423
6 建設仮勘定	428,342,400		
(2) 無形固定資産	1,150,441,719		
1 借地権	162,778,654		
2 ソフトウェア	987,663,065		
資産合計	101,654,399,832	負債・純資産合計	101,654,399,832

損益計算書（特別振興資金勘定）

令和3年1月1日 から 令和3年12月31日 まで

特別振興資金勘定

摘 要		金 額
内 訳	金 額	金 額
	円	円
I 事業収益		
1 特別振興事業収入	1,245,010,358	1,245,010,358
II 事業費用		
1 競馬振興事業費	13,070,956,638	
2 畜産振興事業費	3,964,084,897	
3 払戻金上乘せ費	6,686,329,170	
4 競馬法附則第8条第2項による交付金	2,677,264,274	26,398,634,979
III 特別振興資金減少額		25,153,624,621

資本等変動計算書(特別振興資金勘定)

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

(単位:円)

	特別振興資金	純資産合計
	繰入金	
令和2年12月31日残高	94,537,131,711	94,537,131,711
事業年度中の変動額		
一般勘定からの繰入	30,764,468,333	30,764,468,333
特別振興資金減少額△	△ 25,153,624,621	△ 25,153,624,621
事業年度中の変動額合計	5,610,843,712	5,610,843,712
令和3年12月31日残高	100,147,975,423	100,147,975,423

注記表（特別振興資金勘定）

本会の財務諸表等は、競馬法（昭和23年7月13日法律第158号）、日本中央競馬会法（昭和29年7月1日法律第205号）及び日本中央競馬会の会計に関する規約（平成19年8月31日規約第3号）に基づいて作成している。

（重要な会計方針）

1. 資産の評価基準及び評価方法

（1）有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

- ・時価（市場価格）のないもの
取得原価を貸借対照表価額としている。

（2）棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっている。

2. 固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

平成19年12月31日以前に取得した資産については法人税法施行令に定められた旧定額法（建物附属設備及び機械・装置については旧定率法）、平成20年1月1日から平成28年3月31日に取得した資産については法人税法施行令に定められた定額法（建物附属設備及び機械・装置については定率法）、平成28年4月1日以降に取得した資産は法人税法施行令に定められた定額法（機械・装置については定率法）により償却している。

耐用年数等については、減価償却資産の耐用年数等に関する省令に定める基準に従っている。ただし、当該基準によりがたいものについては、日本中央競馬会の会計に関する規約の定めによっている。

（2）無形固定資産

定額法により償却している。

なお、本会利用のソフトウェアについては、本会における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっている。

3. その他

（1）消費税等の会計処理

税込方式によっている。

(会計上の見積りに関する注記)

該当事項はない。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額

8,736 百万円

2. 関係会社に対する金銭債権・債務

短期金銭債務 90 百万円

3. 金融商品の時価等に関する事項

(1) 金融商品の状況に関する事項

本会の資金運用にあたっては、日本中央競馬会法に定められており、金融機関への預金、国債その他農林水産省令で定める有価証券に限定して運用している。なお、上場株式は保有していない。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

令和3年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。

(百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金・預金	5,669	5,669	—
(2)有価証券(譲渡性預金)	62,000	62,000	—
(3)未払金	(1,480)	(1,480)	—

※負債に計上されているものについては、()で示している。

(注) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

(1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(2) 有価証券(譲渡性預金)

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(3) 未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(損益計算書に関する注記)

1. 関係会社との取引高

関係会社に対する事業費用額	173 百万円
---------------	---------